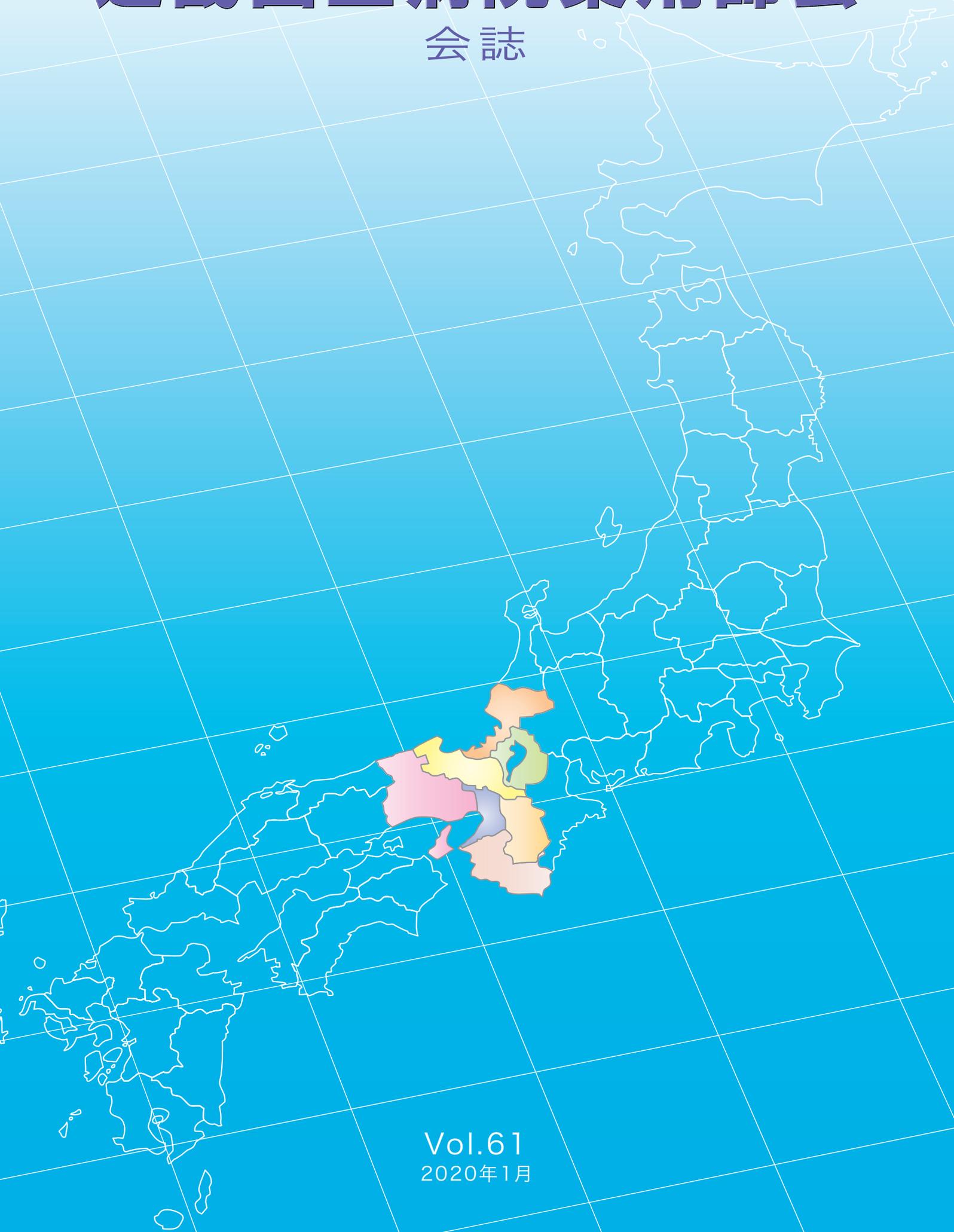


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.61
2020年1月

目 次

会長就任のご挨拶.....	2
東近江総合医療センター 河合 実	
副会長就任のご挨拶.....	3
紫香楽病院 永井 聡子	
副会長就任のご挨拶.....	4
兵庫中央病院 本田 富得	
薬剤師会新体制組織図.....	5
委員会紹介.....	6
薬剤部紹介.....	8
姫路医療センター 田路 章博	
2020 度 近畿国立病院薬剤師会総会報告.....	10
大阪南医療センター 水津 智樹	
2020 度 近畿国立病院薬剤師会総会 特別講演会報告（第一部）.....	13
京都医療センター 江島 怜那	
令和 2 年度近畿国立病院薬剤師会総会特別講演会報告（第二部）.....	14
大阪南医療センター 白崎 佑磨	
趣味のページ.....	15
大阪南医療センター 新田 亮	
編集後記.....	16

会長就任のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 会長
東近江総合医療センター 河合 実

この度、2期4年間務めてこられました本田前会長の後任として、近畿国立病院薬剤師会の会長職を務めさせていただくこととなり、世代交代の真っ只中で舵取りを行うことに責任の重さを痛感しているところであります。副会長、理事、そして会員の皆様のご協力を頂きながら全力を尽くす決意であります。会員の皆様の声を大切にしながら、会を運営してまいりたいと思いますのでご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

「超変革」「躍動」「飛翔」「挑戦」のスローガンのもと前会長の強力なリーダーシップによって4年間薬剤師会事業を行って参りました。そして5年目が始まりました。

今年の干支は「庚子(かのえ・ね)」です。干支は10種類の十干と12種類の十二支の組み合わせで60種類が存在し、60年で一巡する。『庚』とは結実の後に転身することを意味し、『子』とは生命のスタートであり、種子の中に新しい生命のきざし始める状態と記されているものがあります。つまり『庚子』が表す意味は、新たな芽吹きと繁栄の始まりであります。

2020年はこの4年間で作り上げた基礎を揺るぎないものとし新たなる発展、出発の年としたいと思っております。

それにはまず、役員一人一人が自分の役割を明確に理解し、チーム一丸となって、安定した事業運営ができることを第一優先に、そして薬剤師の基本業務について見直しスキルアップを図っていきたいと考えています。

また、その過程で生じたさらなる発展への種子を開花させるべく、薬事専門職、近畿国立病院薬剤部科長協議会、近畿国立病院生涯教育センターの先生方と連携し取り組んでまいりたいと考えています。

最後になりましたが、今年一年が会員の皆様において実り多き年となりますことを祈念申し上げますとともに会員の皆様のご協力とご指導を賜りますようお願い申し上げます、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

副会長挨拶

~近畿国立病院薬剤師会！！~

近畿国立病院薬剤師会 副会長
紫香楽病院 永井 聡子

会長よりこの度副会長のご指名を頂きました紫香楽の永井 聡子です。我々が生まれる前から運営されてきた近畿国立病院薬剤師会は【前身「近畿国立病院・療養所 循環器病センター薬学集談会」：昭和36年発足】もうすぐ60年を迎えようとしています。思い起こすと、勤務1年目の時に何もわからず、ドキドキしながら集談会に参加し、どこに着席したらよいのかわからず、右往左往していたのが昨日のように思い出されます。私が勤務した当初は、現在の1/3の会員数で女性は背広族の中、はるか彼方に1人か2人見えるか見えないかの人数でした。現在は332名の会員数となり、総会・講演会も色鮮やかな色合いがみられ華やかな会になったなど、うれしく思う反面、諸先輩方々が作り上げてこられた薬剤師会の副会長という責任の重さに襟を正す思いです。団塊の世代の諸先輩方々が退職された後、この薬剤師会をどのような場にしていきたいのかとWGで話し合い10年あまりが過ぎたのかと時の流れを痛感しております。ただ、その時も今も「寄りたくない！ 行きたいな！ 会いたいな！ 聞きたいな！ 相談したいな！ 見たいな！ 言いたいな！」＝「参加したいと思う薬剤師会！」という思いは変わっていません。薬剤師の職の多様化はこの数十年で変化に富み、薬剤部・科内の仕事だけでなく病棟や地域のカンファレンス・委員会等で薬剤部・科の代表として日々日常、様々な場面で回答を迫られることが増加しています。薬剤師会の存在は、色々な環境の変化の中で情報提供できる場になればと、まずは、「総務、企画、広報、経理、臨床研究、治験、医薬品情報、がん・緩和・精神、循環器、糖尿病、感染・免疫・アレルギー、栄養・褥瘡」から会員の皆様と共に作っていったら考えます。同じ国立で仕事をし、各施設の専門は異なっても、働いているベースは同じです。同じことで悩んだり調べたりしていることを情報交換し、次のステップへ進んでいけたら素敵ではないでしょうか。

2020年、まずは会長と共に「基礎を揺るぎないものとし、新たなる発展、出発の年へ」向かうべく、微力ながら副会長職を務めさせていただきたく思いますので、よろしくお願い申し上げます。



副会長就任のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 副会長
兵庫中央病院 本田富得

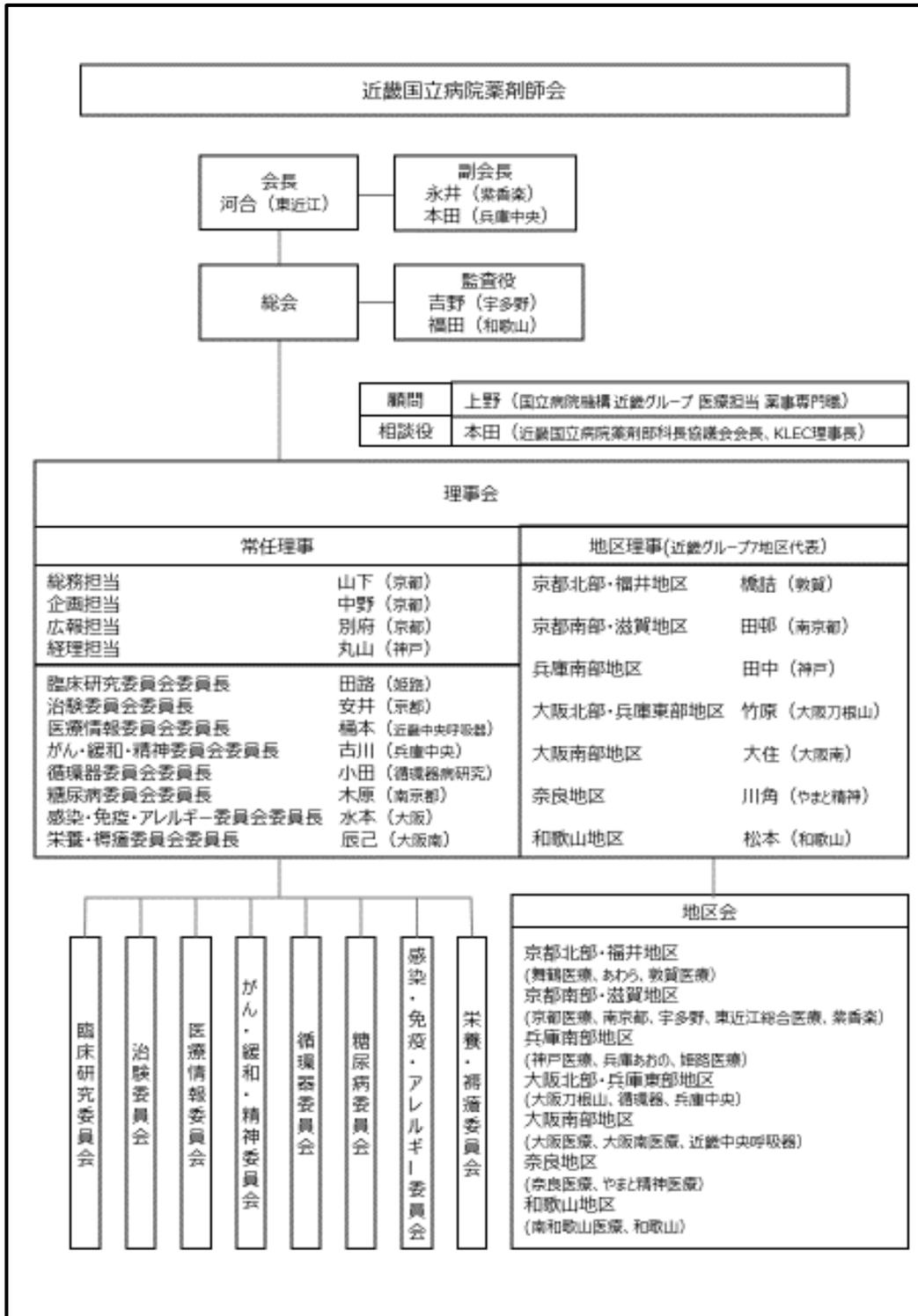
この度、河合新会長のもと、副会長をさせて頂くことになりました。皆様のお力添えを頂いて、活気のある近畿国立病院薬剤師会にしていけるよう取り組んでいきたいと思っておりますので、ご支援とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

私が、近畿国立病院薬剤師会の役員として関わり、15年以上になります。これまでを振り返ってみましても、今回の理事会メンバーが一番若い年齢構成になっていると思います。この若い新しいメンバーで、いろいろな考えを出し合い、新たな発想、新事業など展開していきたいと思っております。

また、昨年臨時総会で承認されました通り、今年度よりこれまで運営してきた委員会を再編し、8委員会の構成となりました。各委員会とともに、事業計画を立案するに当たり、会員の方々が、少しでも日常業務に役立てるよう各委員長が何度も検討を重ね、複数年を視野に入れた実施計画を立てています。また、講習会の内容におきましても、薬剤業務や研究をする上での考え方などをより理解頂けるような内容を考えています。ただ、近畿国立病院薬剤師会の活性化は、理事会メンバーだけの努力だけでなしえるものではなく、会員皆様の会への参加やご意見が最も重要だと考えていますので、会員皆様のご意見につきましても、各所属委員会や地区会を通じて頂けたら幸いです。

最後になりましたが、今後共、会員の皆様の御支援と御協力をお願い申し上げ、副会長就任のご挨拶とさせていただきます。

近畿国立病院薬剤師会 新体制組織図



～ 委 員 会 紹 介 ～

委員会名（委員長名）/事業計画

1. 臨床研究委員会（臨床研究委員会委員長：田路 章博）
 - 1) 臨床研究の推進 学会発表、論文発表等を含めた臨床研究全般を推進するために、トピックスや新規性のある 研究を紹介する。
 - 2) 情報共有 会員の学会発表、論文発表等について各施設の現状把握とスキルアップを目的とした情報交 換会を行う。
 - 3) 2020 年度シンポジウムの運営

2. 治験委員会（治験委員会委員長：安井 みのり）
 - 1) 治験担当薬剤師の育成に向けて、治験事務局業務に関する教育ツールの作成を検討する。
 - 2) CRC 認定試験の受験者への支援を行う。
 - 3) 近畿グループ研修(臨床研究治験研修、CRC スキルアップ研修)の主宰施設への支援を行う。
 - 4) メーリングリスト等を活用し、治験に関する最新情報の収集と配信、また各施設からの実務に対する相談対応や情報交換を行い、周知する。

3. 医薬品情報委員会（医薬品情報委員会委員長：桶本 幸）
 - 1) プレアボイドの情報集積 プレアボイド報告を Excel データで集積することでプレアボイド集積業務の効率化を図り、 プレアボイド報告の集積事業プロトコールに沿って実施する。
 - 2) ヒヤリハット有用事例の情報共有 各施設間のヒヤリハット有用事例と実施した対策の有用性について情報共有を行う体制を構築する。
 - 3) 医薬品情報の有効活用 観血的処置を行う際の健康食品・サプリメント休薬期間リストの作成と授乳中の薬剤リスト の改定を行う。

4. がん・緩和・精神委員会（がん・緩和・精神委員会委員長：古川 順章）
 - 1) がん・緩和・精神領域における教育の充実 ・臨床能力（薬物療法マネジメント）向上に向けた支援 ・メーリングリストの活用（施設間での情報交換・勉強会案内等）

5. 感染・免疫・アレルギー委員会（感染・免疫・アレルギー委員会委員長：水本 知宏）
 - 1) 各施設の感染免疫アレルギー領域に対する取り組みについて活動内容の共有
 - 2) ガイドラインの紹介、トピックス等の情報提供

6. 循環器委員会（循環器委員会委員長：小田 亮介）
 - 1) 普段利用している循環器領域に関するツール（ガイドライン、書籍、HP 等）をアンケート形式で収集し、共有
 - 2) 集中治療領域での各施設での関わりについての情報交換 3) メーリングリストの活用（トピックスなどの提供、相談の場）

7. 糖尿病委員会（糖尿病委員会委員長：木原 理絵）
 - 1) 勉強会の実施 ・エンパワーメント実践のための理論と技法 糖尿病患者の行動心理に基づいたコミュニケーションスキルの向上を目指す。
 - 2) メーリングリストを活用したトピックスの情報提供・共有

8. 栄養・褥瘡委員会（栄養・褥瘡委員会委員会：辰己 晃造）
 - 1) 栄養・褥瘡に関する情報共有 各施設の栄養・褥瘡チームの現状報告や取り組み事項等の情報交換を行う。
 - 2) 報提供の充実 栄養・褥瘡に関するガイドライン、学会情報、トピックス等の情報提供を行う。

薬剤部紹介



独立行政法人 国立病院機構

姫路医療センター

National Hospital Organization Himeji Medical Center

【病院概要】

- ・病床数: 411 床 (一般病棟: 390 床、緩和ケア病棟: 21 床)
- ・診療科: 内科(血液)・【精神科】・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・小児科・外科・消化器外科・乳腺外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・呼吸器外科・皮膚科・泌尿器科・【産科】・【婦人科】・眼科・耳鼻いんこう科・頭頸部外科・リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・【麻酔科】・糖尿病内分泌科・緩和ケア内科・救急科・病理診断科
- 27 診療科 *【 】は休診中です。(令和 2 年 1 月現在)
- ・理念: 思いやりのある最善の医療を提供し、患者さんと地域、社会に貢献します。



姫路医療センターは、播磨臨海工業地帯の中心である姫路市(人口 53.6 万人)のほぼ中央、世界遺産『姫路城』(平成 5 年に世界文化遺産指定)の旧城郭の一角に位置し、周辺及び敷地は特別史跡姫路城跡地域に指定されており、学校、公園、美術館、歴史博物館、図書館等、文教施設に隣接した閑静な環境に恵まれています。交通網も山陽、山陰道の要として交通至便な位置にあります。

当院は、1898 年(明治 31 年)に姫路陸軍衛戍病院として創設されて以来約 120 年にわたり播磨地域の中核的病院として地域に親しまれており、地域がん診療連携拠点病院、地域災害医療センター、エイズ診療拠点病院に指定され、地域医療連携支援病院としても承認されています。さらに呼吸



器センター、消化器センター、高精度放射線治療センターを設置し、救急医療体制の充実・強化により地域の救急医療体制の一翼を担っていると同時に、安全で低侵襲な医療を提供しています。

また昨年 4 月より緩和ケア病棟が新設され、10 月より最先端医療機器である手術支援ロボット『ダヴィンチ』も導入され、他の医療機関との連携をより一層強化し、地域に貢献する病院を目指しています。

【薬剤部概要】

薬剤部は薬剤部長、副薬剤部長 2 名、主任 5 名（調剤主任、薬務主任、病棟業務管理主任、製剤主任、治験主任）、薬剤師 13 名、薬剤助手 2 名の 23 名で構成されています。

病棟薬剤業務では、ICU、HCU を含む全 11 病棟に薬剤師を配置し、入院時持参薬処方への代行入力を行うなど、薬物療法の資質向上と薬剤師としての専門性を発揮することを目標に、やりがいを感じられるような病棟薬剤師を目指して日々積極的に活動しています。

院内の各種チーム医療を充実させるために、ICT/AST、NST/褥瘡、PCT、転倒・転落、認知症ケア、外来化学療法、HIV、呼吸器教室、糖尿病教室、DMAT に参画し、多職種との連携強化を図っており、外来指導においてがん患者指導管理料への算定も行っています。

また入院支援センターでは、手術前中止薬の有無や服薬状況の確認を行い、患者指導や医師、看護師へ情報提供しています。

兵庫県病院薬剤師会西播支部と姫路支部で定期開催している薬薬連携会議を通じて、姫路吸入指導ネットワークの定期研修会や臨床検査値の利活用セミナー、共同研究など薬薬連携にも積極的に取り組んでいます。また薬剤師法第23条の2に規定する変更調剤を可能とする院外処方箋に係る事前同意プロトコルの運用により、形式的な疑義照会を減らし患者の利便性向上や業務時間の縮減などに貢献し、さらにトレーシングレポートの運用による情報共有を図っています。

最後に、姫路医療センター薬剤部では病院薬剤師としてのスキルアップを目標に、院内外の研修や学会等に積極的に参加し、病院薬剤師の職能・資質向上に努め、専門・認定薬剤師の取得を目指して、スタッフ全員で取り組んでいます。



(文責:田路 章博)

2020年度 近畿国立病院薬剤師会総会報告

大阪南医療センター 水津 智樹

2020年度 近畿国立病院薬剤師会総会が、2020年1月11日(土) ハイアットリージェンシー大阪にて開催された。関本副会長の開会の辞より総会が開始となり、本田会長からの挨拶、引き続いて上野薬事専門職より挨拶を頂いた。議長には、敦賀医療センター 平木副薬剤部長が選出され、2019年度事業報告、会計報告、会計監査報告があり、全て承認された。

続いて、河合新会長より挨拶があり、新役員の紹介の後、2020年度事業計画案、予算案について審議され、全て承認された。最後に永井新副会長の閉会の辞をもって総会が終了した。

日時:2020年1月11日(土) 13:00~15:00

場所:ハイアットリージェンシー大阪

出席者:159名、委任者103名(会員数332名)

会則12条5項に従い、会員過半数出席により総会が成立

司会:関本副会長(神戸医療センター 薬剤部長)

開会の辞:関本副会長(神戸医療センター 薬剤部長)

議長:平木副薬剤部長(敦賀医療センター)

閉会の辞:永井新副会長(紫香楽病院 薬剤科長)



1. 報告事項

(1)2019年度事業報告

① 事業報告

本田会長(京都医療センター)より事業報告がなされた。

② 委員会報告

本田会長(京都医療センター)より委員会報告がなされた。

③ 地区会報告

各地区理事より活動報告があった。

- | | |
|--------------|---------------------|
| ・京都北部・福井地区 | 朝日地区理事(あわら病院) |
| ・京都南部・滋賀地区 | 喜田地区理事(京都医療センター) |
| ・兵庫南部地区 | 田中地区理事(神戸医療センター) |
| ・大阪北部・兵庫東部地区 | 森田地区理事(循環器病研究センター) |
| ・大阪南部地区 | 関口地区理事(近畿中央呼吸器センター) |
| ・奈良地区 | 小林副地区理事(奈良医療センター) |



(2)2019 年度会計報告

桶本経理担当理事(近畿中央呼吸器センター)より、2019 年度会計について報告があった。

(3)2019 年度会計監査:

覺野監査役(南京都病院)より、2019 年 12 月 19 日に会計監査が実施され、適正かつ正確であるとの報告があった。



以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

2. 新会長挨拶

河合会長(東近江総合医療センター)より、就任の挨拶と新役員の紹介があった。

3. 審議事項

(1)監査役選出

續木薬剤科長(やまと精神医療センター)より、吉野薬剤部長(宇多野病院)、福田薬剤部長(和歌山病院)の推薦があり、賛成多数で承認された。



(2)2020 年度事業計画案

① 総務: 山下総務担当理事(京都医療センター)

2020 年度事業計画案について資料に基づき説明があった。

② 企画: 中野企画担当理事(京都医療センター)

2020 年度事業計画案について資料に基づき説明があった。

③ 広報: 別府広報担当理事(京都医療センター)

2020 年度事業計画案について資料に基づき説明があった。

④ 委員会

2020 年度事業計画案について、各委員長より説明があった。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| ・臨床研究委員会 | 田路委員長(姫路医療センター) |
| ・治験委員会 | 安井委員長(京都医療センター) |
| ・医薬品情報委員会 | 桶本委員長(近畿中央呼吸器センター) |
| ・がん・緩和・精神委員会 | 古川委員長(兵庫中央病院) |
| ・感染・免疫・アレルギー委員会 | 水本委員長(大阪医療センター) |
| ・循環器委員会 | 小田委員長(循環器病研究センター) |
| ・糖尿病委員会 | 木原委員長(南京都病院) |
| ・栄養・褥瘡委員会 | 辰己委員長(大阪南医療センター) |

(3)2020 年度予算案

丸山経理担当理事(神戸医療センター)より、2020 年度予算案について説明があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

4. その他

- ・別府広報担当理事(京都医療センター)より、薬剤師会の組織改編に伴う各委員会への登録・変更について、1 月中に手続きを行うよう説明がなされた。
- ・丸山経理担当理事(神戸医療センター)より 2020 年度の会費納入について説明があった。
- ・朝日前地区理事(京都北部・福井地区)より、薬剤師の集い 2020 の企画、進捗について報告があった。

演題:これからの薬剤師の未来を考える

演者:京都医療センター副薬剤部長 山下大輔先生

講演内容:今回の公演は今後さらに少子高齢化が進み、生産年齢人口の減少が明らかになっていく中で、薬剤師として将来求められる業務はどのようなものであるかを改めて考える貴重な機会となりました。

2045年問題の話題の中で取り上げられた「シンギュラリティ」というAIが人間の知能を超える地点という概念や、「ベーシックインカム」という最低限の生活を送るのに必要とされている所得を無条件に支給する政策など、今はまだ空想の世界でしかないような出来事が現実になりつつあるということが非常に印象に残りました。



AIに業務を奪われていく中で、人間だからこそ出来る業務とは何かを考えなければならない時代が来たように感じます。

薬剤師の業務においても注射薬を調剤するためのアンプルピッカーや散薬・水薬を自動で調剤する機器のみでなく、内服薬のピッキングも機器を導入している施設も増えてきていること、医薬品情報管理業務についても、AIによる問い合わせ業務の対応を行う実験事例や調剤補助者の活用等、薬剤師業務の非薬剤師による実施事例についても紹介がありました。

業務のAI化、非薬剤師業務の拡大が進む中で今後の薬剤師として病棟業務やチーム医療・患者支援センターへの参画・薬局薬剤師も、かかりつけ薬局・薬剤師として地位包括ケアへの参画等を行っていく必要があると感じました。

私は、薬剤師として働き始めて1年目で、日々の業務と自己研鑽に追われる日々で、なかなか薬剤師の置かれた環境について学ぶことができていなかったため、今回の講演で得ることができた知見をもとに、多角的な視野で業務について学んでいきたいと感じました。

講演:「がん社会が抱える新しい医療安全 -VTE 対策- 」

講師:岐阜大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学分野 講師 田中善宏 先生

本講演では、がん関連の静脈血栓塞栓症(VTE)についてご教授頂いた。以下、講演内容について報告する。

がん患者の死因第2位が血栓塞栓症であり、また、VTEの最大の要因もがんである。さらには、がん治療に用いられる分子標的薬(ベバシズマブやラムシムマブ等)投与下では、VTEの発症頻度が高い。このため、がん患者においてはVTE対策が重要となってくる。

周術期のVTE対策としては、フットポンプに加えてエノキサパリンを併用することで、よりVTEの発症を抑制できる。ただし、エノキサパリンは、体重並びに腎機能に応じて用量を調節しなければならず、注意が必要である。



VTE対策を実施するうえで大切なことは、患者を参加させる、すなわち医療従事者と患者間でVTEのリスクを共有し、患者が主体的に予防法を実施するとともに急性期の症状を疑った際には主治医に伝えることである。

がん患者のVTE治療薬の1つにDOACがある。リバーロキサバン並びにアピキサバンは活動性悪性腫瘍の患者には慎重投与となっており、またCYP3A4誘導・阻害薬と併用禁忌である。これに対して、エドキサバンは活動性悪性腫瘍の患者への使用上の注意はなく、CYP3A4誘導・阻害薬との併用が可能である。ただし、エドキサバンは体重・腎機能に応じて、またP-gp阻害薬との併用で用量調節が必要である。

VTEのバイオマーカーとして重要なものは、D-ダイマーと可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)である。基本はD-ダイマーのモニタリングでよいが、D-ダイマーは偽陽性率が高いため、血栓塞栓症が疑わしい場合にはSFMCも測定する。

最後に、講師の田中先生は抗がん治療を行いつつ抗凝固療法も行う「KEEPing Anti-Cancer Therapy and Anti-Coagulation Therapy (KEEP-ACT2)」という概念を提唱されていた。この概念の下治療を行っていくにあたり、薬剤師として、抗がん薬並びに抗凝固薬両者に精通し薬物療法の面からサポートしていくことが重要であると感じた。

趣味のページ

大阪南医療センター 新田 亮

大阪医療センターの足立先生からバトンを受け継ぎました。大阪南医療センターの新田亮と申します。皆さんはじめまして。足立先生は、前任の大阪医療センターで共に働きましたが、明るく周りを和ませてくれる非常に重要な後輩でした。

さて、私は文章を書くのは得意ではありません。そんな私の趣味は読書で、最近では、時間のあるときには、医療をテーマにした小説やコミックを読んで過ごしています。

医療をテーマにした物語というと主人公は医者や看護師、薬剤師はその周囲の人間という形での登場が多かったと思われます。しかし、ここ最近では我々薬剤師が活躍する話も増えてきており、私もワクワクしながら読んでいます。

これらの作品の中で、薬剤師は患者の薬を通して、その患者が直面している問題などを把握して、時に意見を戦わせながらも解決のために患者や医師に対しての支援を行っていくという、“カッコいい薬剤師”の姿を見ることができます。しかし、これらの内容はかならずしも空想上の話ではなく、皆さんも経験あることではないかと思います。かくいう私、治療薬の処方変更を提案し、処方医から「薬剤師がそんな責任を取れるのか！」などドラマみたいなことを言われた経験もあります。まあ、そこで物語のように啖呵を切って喧嘩をすることは出来ず、静かにお互いの意見をたたかわせる位でしたが(笑)。



そして、私のお気に入りの作品が、今春の実写ドラマ化に決定しているとのこと。我々病院薬剤師の姿が一般の方に見てもらう機会が多くなると考えると、あれはドラマの作り事と思われぬように、一層業務に励む必要がありますね。これからも、薬剤師をテーマにした物語が増えると良いなと思います。また、皆さんが知っているお勧めの小説やコミックがあれば紹介してください。

拙い文章でしたが、ご拝読ありがとうございました。次回は、神戸医療センターの永井詩織先生にバトンをお願いしております。永井先生は、非常に穏やかな性格で話をしていて癒される存在でした。それではよろしく申し上げます。

編集後記

♪ あけましておめでとうございます。薬剤師会も、2期4年会長を務められた本田会長から河合新会長へとバトンが引き継がれました。新体制では、さらに若返りが図られました。広報担当者も、若手が起用されましたが、若いエネルギー全開で会員に積極的に情報提供を行っていきたいと思っていますので、会員の先生方もご協力よろしく願いいたします。

♪ 中国の武漢で発生した新型コロナウイルスによる肺炎や、例年通りのインフルエンザの猛威など、暖冬と言われている今冬におきましても、真冬らしい気候になってきましたが、体調管理をしっかりとられ、予防に努めるようにしてください。

♪ 2020年、夏季オリンピック、パラリンピックの開催も控えており、国内のイベントも多く控えています。薬剤師会も、新体制で新たな事業を計画しています。会員の先生方におかれましては、積極的なご参加をお待ちしております。

♪ 新体制になって、間もなくという短期間の間に寄稿いただいた先生方、ありがとうございました。今号も充実した内容となっています。どうぞ、最後までご熟読下さい。

(B.H.)

近畿国立病院薬剤師会会誌

第六十一号 令和二年一月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

京都市伏見区深草向畑町1-1

(独立行政法人国立病院機構京都医療センター薬剤部内)

発行人 会長 河合 実(東近江総合医療)

編集 広報担当理事	別府 博仁(京都医療)
広報委員	水津 智樹(大阪南医療)
	村津 圭治(神戸医療)
	常倍 翔大(兵庫中央)
	池上 洋平(京都医療)
	野田 拓誠(京都医療)